



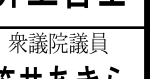
市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



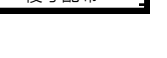
衆議院議員
藤野保史



参議院議員
たけだ良介



参議院議員
井上哲士



衆議院議員
笠井あきら

禁無断転載
複写配布

田植えを終えた後で

富山県農業再生協議会 異例の決定

富山県農業再生協議会（県農協中央会や富山県など18団体で構成し、「需要に応じた米生産」と「水田フル活用」の推進を目的とし、2011年設立）は6月25日、既に作付けを終えた主食用米200ヘクタール分を、飼料用米（エサ米）に転換する異例の決定をしました。小矢部市は12ヘクタールが対象となります。

えっ？主食用米をエサ米にまわす！

全国的に米の需要が減り6月末で200万トンを超える在庫を抱える見込みとなったことから、米価の値崩れを防ぐ目的で行った措置とのこと。全農と卸業者との相対取引では昨年に比べて全国的には60キロあたり800円、富山県でも300円の値下がりが見込んでいます。



富山県で200ヘクタール分とは、米生産数量では1千トンから1千1百トンを主食用米からエサ米にまわすこととなります。農家は、主食としておいしい米を作ろうと、品種や肥料など栽培方法に工夫して作付けしましたが、ここに来てそれをニワトリの餌など、飼料用米にまわすというのです。生産農家での混乱は必至です。

エサ米に国の農家支援制度

5・5510・5万円／10a

主食用米の販売価格は60キロあたり1万3千円ほどですが、飼料用米の販売価格は1Kgあたり数円から十数円です。これでは誰も飼料用米を生産しません。そこで国は10アールあたり5万5千円から10万5千円の補助金（戦略作物助成Ⅱ収量に応じて増加）をつけています。

県は追加支援策 1・5万円／10a

富山県では、主食用米を6月25日以降で、飼料米に転換したところには、追加支援策として10アールあたり1万5千円を上乗せします。予算総額で3千万円を見込んでいます。

コメを国・県が買い入れて 学生・生活困窮者へ食糧支援を

県内では日本民主青年同盟が中心となって、富山大学や県立大学の学生への食糧支援が続けられ、「お米が一番ありがたい」と喜ばれています。

日本共産党富山県委員会も5月19、20日の県交渉で備蓄米を買い入れ学生や低所得者への食糧支援にまわせと要求しました。県は「備蓄米は不作等で供給が不足するときに備えるためのもので制度としては趣旨が違う」、「子ども食堂向けに昨年は60キログラムの支援を行っている」と述べていました。

なお子ども食堂向け食糧支援は、今年度から90キロを4回、360キロに拡充したとのこと。

コロナ禍 コメの需要減というが 営業自粛で「食べられない人々も」

「コメの需要が減った」というが、全国的にはコロナ禍による営業自粛・失業などで「食べられない人々」が広範に発生しています。「コメが過剰で価格が安くて困っている農家がいる一方で、買うに買えない人がいるなんておかしい、政治の責任で解決すべきだ」「コロナ禍で行き場を失った農畜水産物を国が買い取って、生活困窮者に支援せよ」の世論となって広がっています。

省庁の枠を超えた 支援制度創設を

農民運動全国連合会が要求

備蓄米制度の趣旨が違うのなら、コメによる生活困窮者への支援のためには省庁の枠を超えた支援制度の創設が求められます。

そこで農民運動全国連合会はコメの政府買い入れを行い、人道支援にまわせと主張し、「コロナ禍に苦しむ人々に食料を支援する施策を求め要請署名」を始めました。

剪定枝処理機



今年度小矢部市が剪定枝処理機を2台購入し、市民や市民団体に無料で1週間を限度に貸し出しています。既に十数件の利用がありました。

早速、使ってみました

私もさっそく借りて、剪定枝を一日1、2時間程度の作業で、5日かけて処理しました。裁断した枝の長さは2センチほどで、雑草を抑えようと田の搬入路に撒きました。太い枝は環境センターへ搬入したが、その量はたいへん少なくなりました。（砂田喜昭）